



### — 読者からの質問① —

「愛馬のためのカイバ道場」の連載も4年、この間連載回数を大幅に上回る読者の方々から、さまざまな馬の栄養と飼養管理に関するご質問をいただき、その都度個別に回答してまいりました。こうした反応は連載執筆の大きな励みになるとともに、現場には多くの悩みがあることを再認識し、微力ながらお役に立てたことはささやかな誇りとなっています。読者の皆様にあらためて感謝申し上げます。さて、いただいた質問と同様の悩みを持たれている方々の参考としていただきたく、今回から数回にわたって回答とともに紹介いたします。文中の固有名詞の明記は控え、飼料の商品名等はアルファベット頭文字で表記することをご了承ください。

**質問1** 当施設では今年30歳になるポニーを飼育しており、最近・後肢に力が入らず起立できない(立位、歩行は問題なし)・歯が悪く乾草を吐き戻す(ペレットは食べられる)・痩せてくる(元気はある)、などの諸症状がみられてきました。

また、先日、前日から10度程気温が下がった際、立ち上がれずに転倒、しばらく起立不能となりました(現在は回復しています)。後肢に力が入らないのも、痩せてきたことによる筋力低下か? 歯の治療は30歳で、少し弱っていてもするべきなのか等高齢のポニーに関する飼育の知識がなく、どのように今後飼育していくか、現在悩んでいるところです。可能であれば、当施設で天寿を全うさせてあげたいと考えており、もしよければ、高齢の馬の飼育方法や餌など、なにか情報があればご教授いただければと思います。

**回答1** 30歳はヒトに例えると80-90歳と考えられ、住み慣れた施設で最後まで温かく見守ってあげられるよう切に祈念するところです。歯と消化管に加齢の影響が表れていると考えられることから削瘦はいたしかたないまでも(肉付きを回復させる必要はない)、生命と体力の維持をはかるべく、給与飼料には以下の工夫が必要と考えられます。

- ① 飼料はふだん食べ慣れているペレットと乾草切り草を主体に混合して、その咀嚼と摂取後の「のど詰まり」を防ぐため、給与飼料に十分な水を吸収させてから与える。加える水分の量はポニーが食べやすい状況を見ながら決めるが、スラリー状(ドロドロ状態)にした方が食べやすいのであればそのように調整する。
- ② 消化の負担を少なくするため、1回に給与する量を少なくして1日の給与回数を少なくとも4-5回とする。
- ③ 飼料摂取量が少なくさらに削瘦が進む場合は、消化の負担を少ないまま飼料のエネルギー密度を上げるために、脂肪(通常市販されているサラダ油やコーン油のような植物油)を毎度与える飼料に少量(20-30mL)添加する。最

初は脂肪に慣れさせるために、さらに少ない量から始める。

④ アルファルファは老齢馬にとってカルシウムとタンパク質含有率が高く腎臓への負担が大きくなるため、給与する乾草切り草はチモシーなどのイネ科乾草とアルファルファ乾草の混合とする。サイレージ化された乾草は柔らかく消化しやすいので、使用できる場合はこれを給与する。

⑤ 常に新鮮な水が自由に飲めるようにしておく。また、自発的な飲水量を確保するため毎度与える飼料に少量の食塩を添加する(ナトリウム摂取は自発的な飲水反応を刺激するため)。

また、最低限の歯の治療は必要かもしれませんが、それによって大幅に改善する見込みは低いように思えます。以上、老齢馬への一般的な対処方法を記しました。

**再質問(3日後)** 給与回数は現在も4-5回程度にしておりますが、添加するのが通常市販されている植物油でいいとのこと、知りませんでした。早速、試してみようと手配をしているところです。現在、立位での歩行は心配ないのですが一度座ってしまった際に後ろ足に力が入らず立つ事ができないこと、横臥した際に座位に戻れない部分が心配ですが、食餌が改善され、運動を続けていれば筋力もある程度戻ると考えていいのでしょうか。

**再回答** 飼料改善と軽運動継続によって、横臥、座位姿勢から立位への復帰困難な状況が今後改善されるという保証はありませんが、立位歩行に問題ないので神経機能の疾患とは考えられないことから、改善する可能性は十分あると思います。また、ポニー自身が自分なりの起き上がり方を身につける可能性もあります。しばらくは様子を見ながら、ポニーの飼料摂取に対する欲求がさらに高まるようでしたらタンパク質源としてアルファルファ乾草やヘイキューブなどを少量だけ増量してよいと思います。その場合も、水分を加えて食べやすくしてから与えることは前回の回答と同様です。

**報告(2か月後)** 飼育担当者と餌の検討を行い、アドバイスいただいたとおり餌に脂肪の添加をし、食べやすいように工夫して与えるようにしたところ、現在は後肢の筋力は回復、自力で座位から立ち上げられるようになり、横臥したまま自力で立ち上げられないといった状況はその後見られていません。体力も戻り、むしろ倒れる前よりも元気になったような状態です。

**報告(2年半後)** 相談させていただいてから2年半、現在もとても元気に過ごしております。以前ふらつきがあった後肢もしっかりしており、支障なく歩き回れるような状態です。ありがとうございました。